



校長室だより 16号

中島 悟

【キャッチフレーズ】

未来に残そう 伝え築いた 振徳商業
目指せ 三種目 日本一 !

【今週の行事】 6月21日(月) 教育相談週間、全商簿記課外(～26日)
23日(水) 職員研修(公開授業事後研修)
25日(金) 学校訪問
27日(日) 全商簿記検定

- | | | | |
|---|---------------|------------|-------------|
| 1 | 10年目に当たって想うこと | 橋口圭子 | 10周年記念誌より抜粋 |
| 2 | より大きな発展を | 第2代校長 土持綱之 | 10周年記念誌より抜粋 |
| 3 | 第1期生の1人として | 財部恭子 | 10周年記念誌より抜粋 |

10年目に当って想うこと (一部修正)

橋口 圭子

本校は学校訪問者が多い。特に県内外のPTA視察等は、本県の巡回コースになっているみたいが多い。そして訪問された方は、異口同音に「きれいな学校ですね。生徒も礼儀正しく、本当に感じの良い学校ですね。」とよく云われる。開校当時は、第1棟の半分、すなわち保健室、進路指導室、玄関だけと、第2棟の普通教室だけのスタートでした。

雨が降れば、靴は泥だらけ。車はめり込み、雨の中を車を押し出す光景や、晴れると砂ぼこりで目にゴミが入るのもめずらしくない事でした。今では、想像もつかない状況でした。第1回目の運動会等は180名の生徒と20名たらずの職員での小運動会でしたが、風が強く、寒くてふるえながら、皆大奮闘したものでした。又、全校生のダンスでは生徒、職員一体となり、皆ゆかたで出たのですが、風が強くて砂ぼこりで目があけられず、ダンスよりも着物を気にしながら踊ったのをおぼえています。

文化祭は、音楽室で各クラスの演劇会があり、職員も皆、紙の蝶ネクタイを作り合唱をしました。開校当時は生徒の人数も少なく、職員も何かにつけて参加し、生徒と一致団結して学校行事を盛り上げたものでした。そして、当時の生徒達は、何よりも「自分達で自分達の学校を創るんだ」という息込みがありました。

泥と石ころだらけの校庭も今はアスファルト、緑の芝生、数々の木々、花壇には四季折々の花が咲きほこり、特別教室、産振施設や設備も整い充実した学園と変わってきました。歳月が流れ、環境や生徒は変わっても当時の生徒の「学校をきれいに、礼儀を正しく」という精神は継承されていると信じています。そして、10年後、20年後にも学校を訪れた人をして、「きれいな学校ですね、生徒も礼儀正しく、本当に感じの良い学校ですね。」と云わしめる学園にしてほしいものです。

「より大きな発展を」(一部修正)

(第2代校長)

土持 綱之

日南振徳商業高等学校が、創立10周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

この間、学校の施設も内容もともにすばらしい充実をとげ、また7回を数える約1,300名の卒業生を社会に送り出し、それらの人々がそれぞれの分野で活躍しておられることは、まことに喜ばしい限りであります。私は昭和48年4月から3年間、第2代の校長として在職したわけですが、既に校舎や体育館は竣工しており、私が手がけた格技室、図書館、プール等によってすべての学校施設は完備されましたが、たゞ正門前の架橋や飢肥からの登校路の舗装が、関係方面への度重なる陳情等にも拘わらず結局実現できなかつたことは今でも残念でたまりません。しかし、素直で勤勉な日常の学習活動の外に、陸上部やタイプ部をはじめとする体育文化クラブの全国的活躍があつたことは今に至るも忘れ難い鮮明な思い出となつてよみがえってまいります。

「桃栗三年、柿八年」といわれています。創立10年という年数は他の多くの学校に比べて必ずしも長いものではありませんが、桃栗や柿のたとえを待つまでもなく、何らかの歩みをしっかりと地に刻しなければならぬ時期であることを認識していただきたいと思ひます。

青く澄んだ空と、緑の爽やかな野山と、そして黒潮岸を洗う海とにめぐまれ、純朴で人情豊かな日南の風土の中で、創立10周年を迎えられた日南振徳商業高等学校のみなさんがこの10年の歩みを心静かに振り返り、それぞれの回顧を未来への展望に結びつけ、今までの歴史と伝統とをさらに深いものにするこゝとによって、より活力にあふれた明日への道を求めて、卒業生も在校生も一体となり、邁進してゆかれることを心から願つて止まない気持でいっぱいあります。

「第1期生の1人として」(原文)

1回卒

財部 恭子

「振徳商業高等学校第一期生」という記念すべき肩書を与えられたことをとてもうれしく誇りに思う。成績を問われると私自身は恥ずかしくなる程だが、この肩書と一緒に卒業した175名しか持てないわけであるから絶対誇れることだと思ふ。そして貴重なことではないだろうか。まだ今は10年の歴史だがこれからまだまだ何年何十年とつづくだろうと思ふしつづいてほしい。もし、その遠い歴史を私も共に永らえていて振徳の卒業生であることをその時に又誇れる程、学校が立派に成長し、伝統を重ねてくれたならすばらしいと思ふ。

この10年は考えようによっては、人間にたとえるとまだヨチヨチ歩きの時期だろう。歩き初めたばかりである。未知の可能性をいっぱい秘めてまだ歩き初めたばかり。遠いこれから先の歴史を思つたら10年なんてほんの微微たる年月だと思ふ。ただ大事な10年であつたとは思ふ。振徳の基盤の一部にはなつただろう。私個人は学校に何の貢献もしていないが心から発展を祈っている一人である。心から、我が母校を愛している一人である。

創立後10年経つた今、10年という月日が信じられない位、在学中の思い出が鮮やかに浮き立つのを覚える。